１４．南永井のさつまいも

１．この武蔵野台地で、初めて**さつまいも**を作った方がどなたなのかご存知ですか？
吉田弥右衛門という方です。
今から弥右衛門さんがどのようにして、**さつまいも**を作り始めたかをお話しましょう。

２．今から四百年以上も昔、江戸時代のはじめの頃、長井のあたりは誰も住んでいないススキの原野だったのです。
そんな土地に、上州（今の群馬県）から開拓のためにやって来た人がいます。その人が弥右衛門さんの先祖、吉田市郎左衛門さんです。
「ほんとうに乾いた土地だ。近くに川もないし…大変な所だなあ」
しかし、市郎左衛門はあきらめず、一生懸命に原野を開墾しました。そのかいあって、少しずつ畑が広がりやがて小さな村ができました。
だんだん人も増え、南永井村と北永井村という二つの村になり、市郎左衛門は南永井村の名主になりました。

３．時は流れ、吉田弥右衛門の時代になりました。弥右衛門は木を植え雑木林を作り、その落ち葉を堆肥として、やせた畑を少しずつ変えていきました。
それでも雨の降らない日が続くと作物は枯れてしまい、働いても働いても暮らしは楽になりません。
「こう、不作が続いたんじゃ、皆が苦しむばかりだ、何とかしなくては…」と、考え悩んでおりました。

４．そんな時、名主である弥右衛門の家に泊めてもらった旅人が、こんな話をしました。
「上総（今の千葉県中央部）や下総（今の千葉県北部）では、**さつまいも**というものを作っているそうだよ。何でも**さつまいも**はやせた土地でも作れるし、日照りにも強くしかも腹持ちも良いそうだよ。」
その話を聞いた弥右衛門は、「その**さつまいも**というものが、この土地を救ってくれるかもしれない」と、強く思いました。

早速、**さつまいも**について、あちこち尋ねまわりました。
やっと江戸木挽町の川内屋さんから、上総志井津村の、**さつまいも**農家である長十郎さんを紹介してもらう事が出来ました。

5．弥右衛門は息子に、「弥左衛門や、わしはもう年だ。代わりに上総へ行って、**さつまいものたねいも**とやらを分けてもらって来ておくれ。」と、言って少しずつ貯めた大切なお金を渡しました。大役を任された弥左衛門は
「分かりました。**たねいも**を分けてもらって急いで帰ってきます。待っていてください。」と、勇んで志井津村めざして旅立ました。千七百五十一年、今から二百七十年以上も前の事でした。

6．弥左衛門が上総の長十郎さんの家に着いたのは、三月末、
「遠いところから大変じゃったな。そちらの土地はここよりはずい分と寒い所だと聞いている。上手く育つと良いがのう。」と言われ、**たねいも**二百個を五百文で分けてもらい上総の志井津村を後にしました。
弥左衛門は出発してから九日目に無事、父の待つ南永井村に帰ってきました。

7．弥右衛門親子は、さっそく**さつまいも**作りに取りかかりましたが、何しろ全てが初めての事
「なんとか育っておくれよ！」と、祈りをこめて植えました。
やがて夏になりました。太陽の強い日差しが照りつけ、雨の降らない日が続きます。
父と息子は心配で心配で毎朝起きるとすぐに畑に行って**さつまいも**を見守りました。葉っぱはしおれそうになりながらも、つるを伸ばしていきました。

8．待ちに待った秋を迎えました。何しろ**さつまいも**を植えたのは初めての事，掘りあげる頃合いも分かりません。
弥右衛門は不安を感じながらも「弥左衛門やまず一株、二株掘ってみよう」「おお！…　出来ているぞ！…」
二人は飛び上がって喜びましたが、収穫出来た**さつまいも**は僅かでした…。
それでも…。

これからいろいろと栽培方法を工夫したら、きっと上手くいくと、弥右衛門親子は何年も試作に試作を重ねました。その努力の甲斐あって、だんだんと収穫も増え、この地でも**さつまいも**が出来ると確信し、村の人々に**さつまいも**作りを勧めると共に、近隣の村々にも広めていきました。おかげで村の人たちの暮らしも少しずつ楽になっていきました。

9．そして月日が流れました。この辺りで作られた**さつまいも**は、新河岸川の舟で江戸へ運ばれるようになりました。江戸では『**川越いも**』として売られ、中でも**焼きいも**は江戸中で大人気になりました。

「焼いも～　甘くておいしい**焼きいも**だよ～！」

「一本ちょうだい！」

「あいよ、九里四里旨い、十三里だからね、おいしいよ！」

「えっ！　十三里 ?」

「川越から江戸までは十三里だからね、それに栗より旨いだろう」「甘くて、ほくほくしているね。」

（さつまいもはおいしいばかりでなく江戸時代の飢饉の時も大きな戦争の時も大切な食料として多くの人の命を救ったのです。また、現代では健康食品としても脚光をあびています。）

10. 吉田弥右衛門さんは、武蔵野台地で初めてさつまいもを作り広めた人として、平成十八年に三富、富岡地区総鎮守の神明社の境内に青木昆陽さんと共に『甘藷乃神』として祀られました。

日本広しといえども『なでいも』のある神社はおそらくここだけでしょうとの事。さつまいもを持たせた狛犬さんも珍しい。

お正月にはドラム缶でさつまいもを焼いて、参拝者にふるまわれるそうです。

皆さんも、このお話を思い浮かべながらおまいりなさってみてはいかがでしょう。

おしまい